



ふじみだい

土台を忘れず、変化に適応！

副校長 足立 渉

冬休み前ですが、2年生の児童がこんなことを話しかけてきました。

子「副校長先生のうちにはサンタさんきますか？」 私「どうかな？」

子「僕のうちには来るよ。」 私「プレゼントを入れるくつ下を枕元に置かないとね。」

子「僕はくつ下と、サンタさんが家に入るためのマスクと消毒、あと体温計を置いておく！」

はじめ、この子は冗談を言っているのかなと思いました。でもそんな様子は微塵もありません。純粹にサンタさんや自分、家族の健康を考えての言葉でした。あらためて子どもの変化に対する適応力の高さに驚きました。

およそ1年前、新型コロナウイルスとして報道され始めたころ、今のようにマスクや検温、消毒が当り前の日常になっていること、想像すらできませんでした。地域、家庭でもそうだと思いますが、コロナ前とコロナ後では多くのことが変わりました。

学校現場では、臨時休校があったことから急速に ICT 機器の導入、活用が始まっています。諸外国に比べて学校での ICT 活用が遅れていた分を取り戻すかのような急激な変化です。先日も、職員全員で次年度から本格的に使われていくタブレットの研修がありました。扱い次第ですが、教育活動の幅や可能性を広げることになり、子どもの学び方は今後 10 年も経たないうちに大きく変わっていくだろうと実感できました。ただ、今まで様々な視聴覚機器を学習で使ってきた経験では、新しいものを使うと「子どもは楽しく学び、理解できたような気になる。」「担任はその様子を見てしっかりと教えることができたような気になる。」ことが往々にしてありました。ICT 活用の変化に適応しつつ、担任が子ども一人一人と直接向き合っていくことが土台であることを忘れないようにします。また、先日 PTA の委員、役員さんとの Zoom を使った会議が開かれました。今までのように学校に集まる必要がないことは、保護者の方にとっては負担軽減につながると思いました。ただ、今まで顔を合わせて接してきた時間があるからこそ、気兼ねなくできたのだということも忘れてはならないと思います。

今後も様々なことがあるかもしれませんが、子どもたちを見守り育むために、今まで富士見台小が築いてきた家庭、地域との顔と名前がわかる関係作りを大切にしていきます。「変（代）わっていくこと」と「変（代）わってはいけないこと」をしっかりと見極め、変化に上手に適応しながら教育活動を継続していきます。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

